

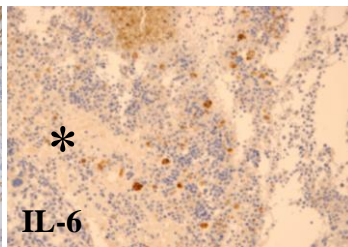
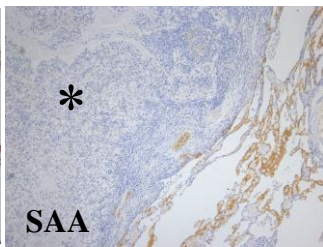
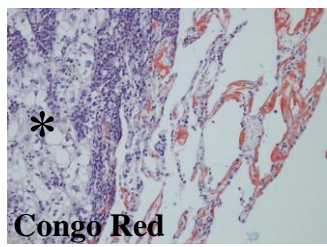
転移性腎癌による AA型全身性アミロイドーシスの2例

研究分担者: 愛知医科大学腎臓・リウマチ膠原病内科 今井裕一

転移性肺腫瘍

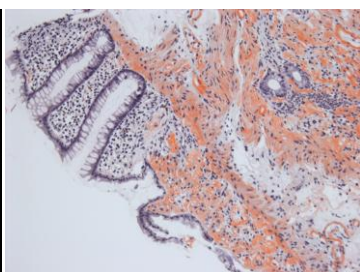


切除腫瘍の組織(腫瘍細胞の周囲に単核球存在、その辺縁にAAアミロイド沈着)

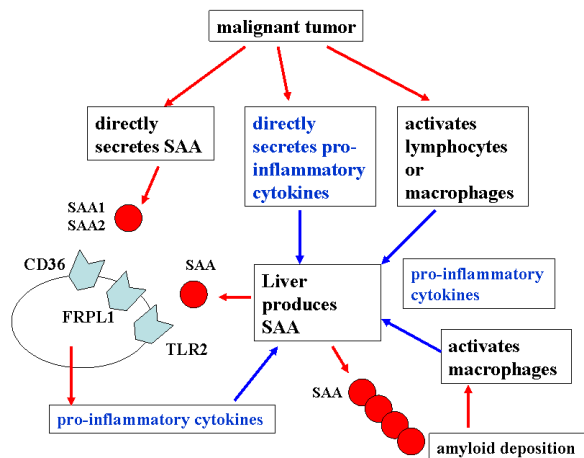


71歳男性。9年前右腎細胞癌手術。7年前肺転移を指摘されたが治療拒否。2年前から下痢あり大腸生検でAAアミロイド沈着。入院後転移性肺腫瘍を切除し、下痢・下血の消失、血清SAA、IL-6値の正常化が得られた。

腫瘍細胞(*)の周囲の単核球がIL-6を分泌している所見が得られた。



69歳女性。16年前左腎癌手術。2年前転移性肺腫瘍。さらに右腎への転移指摘。2ヶ月前から下痢出現、大腸生検でAAアミロイド沈着。IL-6高値であった。



腫瘍関連AA型全身性アミロイドーシスの発症機序

解説

1. 転移性腎癌によりAA型全身性アミロイドーシスが発症することがある。
2. 腫瘍細胞がIL-6あるいはSAAを直接分泌するのではなく、腫瘍細胞周囲の単核球がIL-6を産生していた。
3. IL-6をコントロールする治療法が有望である可能性を示唆している。